

第14回 信濃町企業誘致推進委員会次第【議事録公開用】

平成28年3月3日（金）17：00～
信濃町役場 公室

1 開 会

2 挨拶

ご苦労さまでございます。年度末の大変お忙しい中での会議という事でお集まりいただきましてありがとうございます。

また、日頃より町政全般に対しまして皆様方に深いご理解ご協力をいただいておりますことをこの場を借りて御礼申し上げます。

今、町は2月会議の会期中ではございますが、その中で29年度の予算審議等を行っていただいております。現在の予定では一般会計で58億ということで、対前年度比で1.1パーセント減となっております。これから最終日が3月9日になりますが議会の皆様に認めていただく中で新年度体制を組みたいと考えております。

その中でもご承知のとおり地方創生がらみの事業につきましても町は対応していきたいと考えております。特に町が抱える人口減対策につきましてもこの企業誘致による雇用促進を図り、移住定住の増を図りたいというような事で町は進めているところでございます。そのような事で、今日お集まりの皆様へ企業誘致に関しましていろいろな情報を提供していただくとともに、各委員の皆様へ共通認識を一層深めていただければありがたいかと思っております。いずれにしましてもこの企業誘致につきましてもこれからますますの促進の協力をお願い申し上げます。簡単ではございますがあいさつとさせていただきます。本日は大変ご苦労様でございます。

3 検討事項等

(1) 信濃町企業等誘致条例に基づく助成事業の指定状況について

- ・信濃町企業等誘致条例に基づく申請の承認状況について説明 1件

(2) 現状について

- ・企業誘致に関する経過報告等
- ・平成28年度の企業訪問及び関係機関への訪問状況について説明

【質疑等】

委員 農業用地（農地法第3条第2項第5号の規定による権利移転の制限）の規制の緩和について町では実施する予定はありますでしょうか。

産業観光課長

現在農業委員会の方で、定住するときに農地を一緒に持ちたいという方もおりますので、下限について農業委員会の農地部会で検討しているところです。その結果を踏まえて対応していきたいとおと考えております。

委員 どのくらいまで下げたいとお考えですか。

産業観光課長

まだ検討が始まったばかりです。当町では今は原則として 5,000 m²以上でないと農地が移動出来ないという状況がありますので、近隣の様子を聞く中でかなり緩和をしないといけないということで検討を進めておりますが、具体的な数字までは決まっていません。平成 29 年度中には定めていきたいと考えております。

委員 この前にお客様で、障がい者の就労施設を作りたいというお話があり、信濃町でどうだとお話をしたら、いろいろな設置基準等がある中で篠ノ井で行いたいという事でした。最近では新聞報道で軽井沢で学校法人が小学校からの一貫校を実施するとか、それから、東御市の方でもそんな話が出ていますが、ある意味では、特殊ではありますが、信濃町で学校法人というのは一つの選択肢に入るのかどうか。

事務局 学校法人で良いのですか。

委員 学校法人というのは大きすぎますが、障がい者の助産施設と言うものをつくるというお話がありましたので、結論的には篠ノ井の方で作りたいというお話でしたが、そうした施設の誘致も信濃町では想定の一つに入るのかどうかということをお聞きしたい。

事務局 障がい者施設につきましては、法律等において設置基準があるわけではございますが、もちろん新規で開設していただくということは当町としても想定の中にあります。もしお話がありましたら、主管課とも調整をしながら進める必要がありますが、情報提供をいただければと思います。

委員長 情報があればお知らせいただければと思います。

委員 篠ノ井での検討というのは、設置基準の関係でという事なのでしょうか。

委員 基本的に設置事業者が長野市内、長野市中心部では既存の施設が多くある事から参入ができない、よって長野市郊外、篠ノ井では当該事業者が現在検討している施設がないことから設置を検討しているとのことです。

委員 前回いただいた地方創生事業について、木育については広報等で知っていますが、その他事業の進捗についてご報告をいただけますか。

事務局 当係で直接かかわっているのは木質バイオマスの事業でございますが、この件につきましては、現在木質バイオマスの利用ということで調査検討を行っております。昨年は、事業化できるかということでペレットの工場を設置したうえで運用ができるかということを検討させていただきました。結果としましては、とても今の段階では事業化できるものではない、ペレットをつくって販売をするというのは困難であるという調査結果が出ました。では今現在何を検討しているかと申しますと、木質バイオマスを活用した中で資源の循環をしていきたいということで、町の公共施設に木質バイオマスを使ったボイラーを設置できないかどうか、設置することによってある程度効率的に運用できないかということを検討しているところです。こちらにつきましては3月末の業務期間となっており、まだ結論は出ておりませんが、ふれあい広場しなのが温水ボイラーで動いておりますので、そちらを第1候補と考えまして運用できないかどうかということを検討しているところです。先ほども申し上げましたが、まだ検討段階ですので運

用ができるかということは結果が出ておりませんが、今後結果がでましたら、ご報告をさせていただきます。

なお、木育についてはご存じだという事ですが、その他信濃町の森林資源を使った事業としていろいろと上がっているところがございますが、それぞれ地方創生の交付金を活用しまして、今現在それぞれのセクションで調査検討をしている最中ですので、詳細につきまして当係ではご報告ができませんのでご了承願います。

産業観光課長

木育の部分では、ウッドスタート事業ということで生まれたお子様に信濃町の木材を使ってそれをプレゼントするという事業をやっています。

それから信濃町の家構築事業ということで信濃町の木材を使って信濃町の工務店が加わる中で信濃町の家というシステムを構築しまして、信濃町で家を建てたいという方がいらっしゃいましたら、そのシステムを使っただいて、その建物をつくったらいくらぐらいになるとか判るようなシステムの運用を、岐阜県の東白川村で先進的に実施していますので、そのシステムを参考にさせていただきますして、今現在進めているところです。できれば平成29年度中にシステムを稼働したいと思っています。そうは言っても信濃町では、建設が年間3～40件くらいしかありませんので、信濃町だけでなく、信濃町の材を使って長野市で作ってもらうとか、信濃町の工務店がそういうところに入って事業を展開していけるような形で進めているところです。産業観光課では以上の2つの事業を進めています。

委員 去年の10月6日の産経新聞に記事として紹介されたものでしょうか。

産業観光課長

はい

委員 当行では、いろいろなお客様から空き家工場の借り手、又は買い手を探してほしいとの依頼があり、本店や関連の不動産会社を通じていろいろと調べております。そうした活動をしていく中でこの企業誘致に関する補助とかの制度のPRをもうちょっとしていただければありがたいなと思います。あと業種ですね、この前1件ありましたが、ちょっと産廃的な事をやりたいというお話があつて、結局まだ検討中ではあるんですが、産廃関係ですと補助だとかの対象になってこないのですが、近隣に産廃の業者が来てしまうと近隣の方が困るところもあるとは思いますが、なにがしらのご対応についてご検討いただきたいという事と、他の市町村のように工場団地があつてそこに誘致するという訳ではないので、空いているところの情報を、私どもにも守秘義務がありますので、言えることと言えないことがありますけれども、情報を共有して、空き家バンクみたいに、工場バンクみたいな形のものであれば何かしら話があつた際に直ぐに対応できるのではないかというふうに思っておりますのでご検討いただければ助かります。

情報の発信については、パンフレットの作成にお金をかける必要は無いと思いますが、ホームページでの情報の発信を強化するなどの対応をしてい

ただければと思います

事務局 ご提案ありがとうございます。特に制度の啓発に関しましては今後力を入れていかなければならないと感じておりますので、ご協力をお願いいたします。

(3) その他

次回開催予定を7月頃としたい旨事務局より提案

4 各委員から報告（意見交換等）

委員 委員会が始まる前に話していたことですが、白馬にオーストラリアの方が一時ずいぶん集中的に来て賑わっていたという話ですが、それが野沢温泉に飛び火しまして、野沢温泉におきましては、物件がほとんど底をついて残っていないというような状況の様です。住民が住んでいる市街地のほうにまで進出始まって、それが今度妙高に飛び火しまして、妙高のほうに外国の方が来ているようですね。長野駅から北信濃線に乗りますとオーストラリアの方だと思いますが、黒姫で下りずに妙高まで行ってしまう状況ですね。それが今度斑尾のほうに行きまして、斑尾が今度は賑わい始めている。なぜか信濃町だけが頭越しに飛び越えられてしまっている。なんか信濃町に目を向けさせるような対策をした方が良いのではないのでしょうか。

委員 今妙高での仕事が結構多くて、外国の方が会社を作って妙高の建物を買うという事が多くあります。信濃町でも国際村にいらした方が、やはり第2の故郷という感じで、なんとか昔のような賑わった野尻湖を復活させたいと思っている方がいらして、とりあえず2～3年のうちに何とかしたいと思っている人はいます。オーストラリアの人もいますけど、要は何が良いかということ、景色ですね。信濃町の一番良い所はやはり景色だと思います。今は野尻湖がとても寂れているのでその辺をなんとかすれば、もう少し良くなるんじゃないかなとは感じます。

委員 確かに、野尻湖の周りはとても景色が良いですよ。だけど実質誰もいない。なんでこんな良い所なのにこんなに寂しいのって思いますよね。

委員 不動産屋さんも言ってますが、信濃町は景色が良いので飛びつくんですが、買って直ぐに合わないからと言って手放してしまうとの事で、なぜなのかは分かりませんが、冬が厳しいのか・・・景色は皆さん良いとは言いますよね。この景色の良さを活かせる何かがあればいいとは思っています。

委員 聞いた話では、若い人たちが信濃町に来て定住しようとした時に、消防団に入らなければいけないと圧力があるというのが嫌だということを知ったことがあります。それを入らなくてもいいよとは言えませんが、どうなんでしょうかね。

委員 私の住んでいるところは、外から来た人が半分以上の所なので、そんな圧力は全然ないですが、だけどいろいろ話を聞いてみると、結構区長さんの力が強かったりとか、年寄りの力が強くてプレッシャーがかかっている人もいるのかなとは思っています。

委員 ご年配の方は、昔から消防団等でご活躍して、武勇伝を起こしてそれが当たり前ようになってますからね。今の若い人たちってそういうエネルギーが無いように感じるんですけどね。野尻湖を活性化したいというのは、海外の人なんですか。

委員 もともとはアメリカですが、住所は日本の方です。とにかく野尻湖を何とかしたいという思いの強い方です。

委員 周遊道路が今交通規制がかかっていますね。

建設水道課長

周遊道路での雪崩の危険があり、今日も少し崩れたようですが、その為の規制です。

野尻湖周辺は国立公園なので、景色が良いのは開発がされないから当然で、新たに家を建てるなど開発するのは難しく、野尻湖の周りの景色にはなかなか手が付けられないという規制が環境省の関係ですが入っています。いっぱい人が来て賑わっているのと、何かものをつくって賑わうのとは意味合いが違うと思いますが、その辺に自然が残されている原因があると思います。

委員長 物件の動きはさほどほかの地区と比べてないのかもしれませんが、観光面、或いはインバウンド関係では、タングラムでは非常に先ほどお話があった妙高からのお客様を、一カ所では外国の方は飽きてしまうということで、結構連れてきていただいて、タングラムが賑わっています。仕事の関係もいわゆる地方創生の絡みの中で、スキーのインストラクターの養成とか或いはインターンシップで仕事をされている方も受け入れていますので、それらを介する中で、中国、韓国の方も人数的にはタングラムは賑わっています。ただ、黒姫高原のほうが、やっちはいますがなかなかそこまで波及していないというのが現状です。

委員 新聞で載っていましたが、白馬も良いが結局あそこも夜遊ぶ（飲食関係）ところがないためにバスを出して松本まで連れて行ってというような対応をしなければなかなか満足しないようで、ステップを上げるとそういうリクエストはかなり大きく出てくる。だから今聞いてタングラムならそういう施設が一体としてあるから良いのかと感じました。トータルで考えないといけないのかなと感じています。

委員長 先日私も赤倉温泉に行きましたが、赤倉は昔のネオン街が復活した感じですよ。外国の方ばかりが歩いていました。で、隣の新赤倉、池の平になると真っ暗なんですよ。赤倉だけが昔のスキーブームの頃に戻っているような感じですね。

委員 タングラムとかは、経営者のアクティビティが凄いですよね。いろいろなアイデアを詰め込んで客を集めていますよね。

委員 冬だけでなく、シーズンを通しての滞在型となると野尻湖というのは一つのキーワードにはなりますよね。泊まる場所はどこかと言われるとちょっと野尻湖周辺だと限られますが・・・。

委員 ペンションは結構残ってますよね。この前不動産屋さんとの話でペンションの物件がほとんど無い。物件として流通する物件が無いと言っていましたね。

委員 物件としては、築何年とかで線を引かれてしまうとなかなか古いのは無いんですよ。白馬でもそうですが、古い物件は見向きもされませんよね。

5 閉 会

委員名簿（50音順 敬称略）

- 浅野 英彦 ○荻原 一正 ○兼重 尚子 ○小林 みち代 ○田中 克典 ○星野 直信
- 副町長 和田 勇人 ○総務課長 高橋 博司 ○産業観光課長 小林 義之
- 建設水道課長 松木 哲也

（事務局）○総務課 定住促進係 高橋 哲 長原 達也